

◆病院の理念◆

社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します。



病院長・副院長着任のご挨拶



病院長
内山 和久

平成28年4月1日付けで大阪医科大学附属病院院長を拝命いたしましたので、一言ご挨拶を申し上げます。近年の少子高齢化による人口構造の変化とそれに伴う疾病構造の変容のなかで、「治す」医療から「治し・支える」医療へと変化し、今後、地域包括医療構想が推進されるために病院の役割分担が明確化します。そのような社会的背景のもと、大阪医科大学附属病院は「高度急性期病院」の役割を担うこととなります。本院は882床を有し、29の診療科と14の中央診療部門および関連部署等を合わせて2,200人余の病院スタッフが支えています。特定機能病院として、低侵襲で最先端の高度医療を提供するとともに、患者さまの意見を尊重した安全で優しい心の通った医療を心がけております。

周辺の医療機関とも緊密な病々連携・病診連携を構築し、5大がん(乳がん、胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん)と前立腺がんの連携パス、さらには脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、大腿骨骨折といった地域連携パスを医師会と共に作成して積極的に活用するなど、三島医療圏でのより良い医療を目指しています。また、これをより一層展開させるために広域医療連携センター(医療連携室・入退院支援室・患者総合相談室・ボランティア支援室)を日々充実させています。

2016年3月には増加の一途をたどる手術症例に対応できるように病院西側に6階建ての中央手術棟が竣工しました。2、3階に計20室の手術室と16床のICU、そして4階には胸部外科病棟HCU(ハイケアユニット)、5階には消化器外科病棟が配置されています。とくに3階にはハイブリッド手術やロボット手術など最新技術が導入され、対外的にも注目されています。さらに5年後には現在の病院5号館と臨床講堂棟を取り壊し、最新設備を導入した12階建てのメインタワー(北棟)が建築される予定です。

われわれ職員一同は、「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します」という本院の理念を実現すべく、一丸となって日々努力し、患者さまとご家族に安心と安らぎを与えられる病院を目指しています。何かお気付きの点やご要望がございましたら、ご意見箱を通じてお知らせいただければ幸いです。



副院長
勝間田敬弘

このたび、副院長を拝命いたしました胸部外科学教室の勝間田です。よろしくお願いいたします。内山(新)病院長の下、副院長として5期目の任務となりましたが、本院の理念である「地域社会のニーズに安全で質の高い医療をもって応える」ことが、この特定機能病院に課せられた使命であることを忘れず、初心に戻り、務めさせていただきます。4年前、黒岩(前)病院長より本院のさらなる機能拡充を目標とした方針が打ち出され、私はその実現に向け、医事・保険診療と薬事業務の2面より尽力させていただきました。今期も引き続き、その任に当たらせていただきます。

医療保険管理・教育委員会は、急速に変化する医療保険制度への迅速な対応と診療現場への還元を目的とし、患者さんの診療に十分な医療資源の確保と、それを持続可能にする安定した診療報酬の回収を目指します。医療の質を下げたまま無意味な節約は廃し、患者さんと職員が満足感を共有できる病院を目指して努力いたします。薬剤部は病院薬剤関連業務の土台であります。個々の薬剤師の業務の精度を最高のレベルで維持し、患者さんに安心と満足を提供できる薬剤師を外来と病棟の現場に配置いたします。この2部門の活動は、時には医療者に厳しく提案する場面もございます。しかし、全ては「患者さんに優しく」に結実すべきものと思っております。この理念の下、部署一丸となって職責を果たしていきたいと存じます。



副院長
石坂 信和

平成28年度から副院長を仰せつかりました、循環器内科の石坂信和でございます。よろしくお願いいたします。

医療の高度化により、今まで対応が困難であった病態へのアプローチも可能になってきました。最適な医療を提供するにあたり、知識のアップデートや技術的なブラッシュアップを行う必要があることは当然ですが、個々の医療者のハンドリングだけでなく、多職種との密接な連携のもと、広義のチーム医療を前提としなければ成り立たなくなっています。

また、さまざまな診療分野における新専門医制度の発足が、すぐそこまで来ています。専門医の技量習得が新制度の目的ではありませんが、専攻医の先生方が、どの地域のどの医療機関でトレーニングを行うべきか、ということについても、これまでとは違うレベルから指示や介入が行われる可能性もあります。連携機関、関連病院の先生方とともに、最適な人材配置を探ることも求められてきます。

研究活動も大学病院の使命であります。これらをすべてクリアすることは大変です。しかし、いつの時代においても複雑なミッションに対して、先輩諸先生方が情熱をもって道を切り開かれてきたわけですから、現れ出ざるさまざまな案件にうまく対応しながら、しかし、第一はやはり、安心、安全な医療の提供と念じ、微力ながら尽力させていただきたいと考えております。皆さま方のご指導を賜れば幸いです。



副院長
南 敏明

このたび、副院長を拝命しました麻酔科学教室の南敏明です。よろしくお願いいたします。黒岩前病院長の下、新中央手術棟の構想から引越、電子カルテの導入、医療総合研修センターの立ち上げなどに携わりました。

今回、医療安全推進部長および中央手術部長も兼務いたします。

医療安全に関しては、平成27年10月1日から医療事故調査制度が施行されました。医療事故調査制度は、医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、その調査報告を民間の第三者機関(医療事故調査・支援センター)が収集・分析することで再発防止につなげ医療の安全を確保するものです。このような事態にならないように、医療安全の啓蒙活動およびヒヤリ・ハット事例を収集・分析することで予防につなげたいと思います。

また、新中央手術棟は、手術室20室、ICU16床からなる超最新鋭・超急性期病棟です。2015年、旧中央手術室13室で、総手術件数9,078件、麻酔科管理症例6,294件が施行されましたが、2016年4月1日から新中央手術棟の手術室がフル稼働する2016年度は、年間11,500件の手術が安全に施行されることと思います。今まで外科系各科では手術待ちの患者さまが多数おられました。解消の一助となると思います。

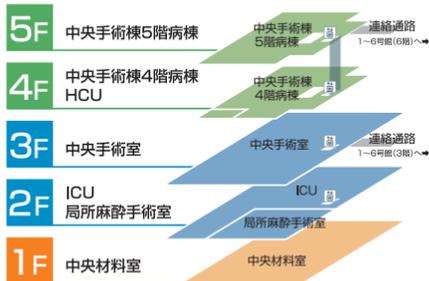
本院が安全に、そして新中央手術棟が安全で効率よく運用できるように、新病院長の内山先生のご指導下に職責を全うしたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。



副院長
根尾 昌志

このたび、副院長を拝命いたしました整形外科教室の根尾昌志です。おかげさまで、現在本院は順調な発展を遂げています。2016年3月末にはハイブリッド手術室2室を備えた新手術棟が稼働を開始し、今までよりも高度な手術がより多く行えるようになりました。一外科医としては大いに期待しております。さらに今後は外來棟、病棟の建て替えが順次行われていき、約10年後には全く新しい近代的な病院に様変わりする予定です。これにより、特定機能病院としてさらに良質で高度な医療を提供できるようになります。しかし、医療が高度になればなるほど、医療安全のシステムを強化し、その水準を上げていかねばなりません。また、特定機能病院といえども、健全な経営はその機能維持に欠かすことができないものです。ますます厳しくなっている医療経済環境のなかで、提供した良質な医療に見合う報酬を得ることができるよう、病院全体のシステムを柔軟に効率化していくことが必要です。地域における特定機能病院としての役割を明確にし、地域とのスムーズな結びつきを確立して、地域の信頼をさらに強固なものにすることも大切です。内山和久病院長の新体制の下、これら多くの問題に全力で取り組んで、患者さまにとっては信頼のおける、職員には働き甲斐のある病院を目指してがんばりたいと思います。皆さまのご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

新中央手術棟オープン!! 「24時間体制で断らない手術室」最新鋭の設備を整え高度な医療を提供!



OSAKA MEDICAL COLLEGE MISHIMA-MINAMI HOSPITAL

大阪医科大学三島南病院 回復期リハビリテーション病棟

リハビリテーション病棟師長 西村 祐子

回復期リハビリテーション病棟は、原因疾患の急性期治療を終えてもまだ医学的・心理的サポートが必要な時期の患者さまを受け入れ、それぞれの医療専門職がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で住み慣れた自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。当病棟は、病床数32床であり、医師、看護師、ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフ、栄養課が一体となり、24時間365日体制で治療とリハビリテーションにあたっています。入院中は患者さまやご家族と退院後の生活について話し合い、ADL(日常生活動作)の改善と、ご家族への介助方法も指導します。退院前には患者さまとともにご自宅を訪問し、生活の場での動作を確認します。このように安心して在宅復帰していただけるよう患者さまに寄り添った看護・介護・リハビリテーションサービスを提供します。



情報コーナー

病院機能評価 (3rdG:Ver.1.1) に認定されました

平成27年6月18・19日に日本医療機能評価機構による病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)を受審して、更新認定されました。

認定期間：
2015年7月25日～2020年7月24日



(一般病院2)



(精神科病院)

大阪医科大学附属病院のシャトルバス 時刻変更

平成28年4月1日からの運行時刻のご案内

増便

便名	JR高槻駅(発)	大阪医大(着)	大阪医大(発)	JR高槻駅(着)
1	8:35	8:40	8:45	8:50
2	8:50	8:55	9:00	9:05
3	9:05	9:10	9:15	9:20
4	9:20	9:25	9:35	9:40
5	9:40	9:45	9:55	10:00
6	10:00	10:05	10:15	10:20
7	10:20	10:25	10:35	10:40
8	10:40	10:45	10:55	11:00
9	11:00	11:05	11:15	11:20
10	11:20	11:25	11:35	11:40
11	11:40	11:45	11:55	12:00
12	12:00	12:05	12:15	12:20
13	12:20	12:25	12:35	12:40
14	12:40	12:45	12:55	13:00
15	13:00	13:05	13:15	13:20
16	13:20	13:25	13:35	13:40
17	13:40	13:45	13:55	14:00
18	14:00	14:05	14:15	14:20
19	14:20	14:25	14:35	14:40
20	14:40	14:45	14:55	15:00
21	15:00	15:05	15:15	15:20
22	15:20	15:25	15:35	15:40
23	15:40	15:45	15:55	16:00
24	16:00	16:05	16:10	16:15

【お知らせ】・JR高槻からの初発を8:35に変更します。
・初発～3便を15分間隔で運行し、来院者のアクセス向上を図ります。
・本院発の最終便は16:10となります。

市民公開講座

第6回 平成27年12月19日

患者安全に必要な コミュニケーション

医療安全対策室 村尾 仁



安全・安心な医療の実現には患者さまと医療者の双方が互いの立場を尊重し協同(コラボレーション)することが必要です。

1. 医療という人間関係

患者さまと医療者の人間関係として医療を捉えることは、あるべき医療の姿を理解するうえで重要です。患者さまは、全く初対面の医療者に病気という極めて個人的な問題を委ねるのです。信頼を前提に始まる特殊な人間関係です。

診察の目的

① 医療情報の収集

② 患者さんの心情ケア



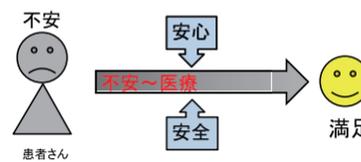
信頼の芽

心情ケアの場としての診察

2. 患者さまという存在

患者さまという存在を一言で表現するなら「不安」という言葉が当てはまります。病気を診る他に、患者さまに寄り添い不安な心情をケアすることは医療者の重要な役割です。いかに医学が進歩しようとも、心情ケアの重要性が変わることはありません。

- ・あなたは**不安**でいっぱいですね
- ・安心と安全の提供に努めます
- ・結果だけでなく、**過程も含めた満足**を目標に



3. プロセスこそ医療の本質

患者さまの満足は、医療の転帰(治療するか否か)だけで決まるものではありません。最良の結果を目指し、患者さまと医療者がどれぐらいプロセスを共有できたのかも重要な要素です。転帰よりもプロセスこそ医療の本質といえるかもしれません。

4. 医療者と患者さまのコラボレーション

医療を患者さまと医療者の人間関係として捉えるなら、その理想とする関わり方は両者が同じ目的のためにコラボレーションする状態です。単なるコミュニケーションを越えた関わり方こそ、安心と安全につながる理想の医療といえるでしょう。

第7回 平成28年1月16日

認知症を予防しよう! 今できること

神経精神医学 富樫 哲也



皆さまご存知のようにわが国には未曾有の超高齢化社会が迫っています。年齢を重ねるとの忘れを自覚したりするようになりますが、それが加齢によるものか、認知症によるものかは経過が大きく異なります。認知症というのは脳の萎縮や血管の詰まりといった変化や、水頭症、硬膜下血腫、甲状腺機能低下症、アルコールや睡眠薬による影響などさまざまな原因によって「もともとできていたことができなくなった状態」と考えられています。記憶障害のみならず家事ができなくなった、金銭や服薬の管理ができなくなった、道に迷うようになった、といった症状があると認知症が疑われます。認知症の原因として一番多いと考えられているのがアルツハイマー型認知症です。原因はアミロイドβ、タウ蛋白といった物質であることが明らかになっていますが、現時点では根本的な治療はありません。最近の研究で糖尿病は認知症の高リスク群であるということが明らかになりました。現時点で認知症を予防するためにはまず糖尿病を含めた生活習慣病にならない、もしくはしっかりとコントロールすることが重要であるということがわかりました。また知的な楽しみや周囲との関わりが多い人のほうが認知症になりにくいという報告もありますので、認知症予防には次の3点を意識して欲しいと思います。

- ① 運動する習慣を増やしましょう(1日30分程度)
- ② 塩分は控えめに、魚や野菜も取り入れたバランスの良い食事を心がけましょう
- ③ 趣味や興味のあることに積極的に参加し、生きがいをもって生活しましょう

平成28年度 市民公開講座 開催予定

回	開催日	テーマ	会場	講師
第1回	平成28年 4月16日(土)	胃・食道がんの外科治療	一般・消化器外科学教室	講師 河合 英
第2回	5月21日(土)	お口の中の痛み! それってカンジダ症?	口腔外科学教室	准教授 寺井 陽彦
第3回	6月18日(土)	脳卒中後遺症に対する最新治療とリハビリテーション	リハビリテーション医学教室	講師 仲野 春樹
第4回	9月17日(土)	南海トラフ巨大地震を控えて、今、私たちが取り組んでいること ー超急性期から復興期までー	救急医学教室	准教授 富岡 正雄
第5回	11月19日(土)	最近まぶたが重くて開きにくくありませんか? 眼瞼下垂についてのお話	形成外科学教室	講師 岡田 雅
第6回	12月17日(土)	治る脳卒中、治す脳卒中 ～寝たきりにならないために～	脳神経外科学教室	准教授 宮地 茂
第7回	平成29年 1月21日(土)	腎臓を守ろう	内科学Ⅲ教室	講師 森 龍彦